



## 東日本大震災から10年を迎えて

支部執行委員長 小林勝彦

3月11日、巨大津波という自然の猛威に誰もが震え上がったあの日から10年を迎えた。

戦後最悪の自然災害となった東日本大震災では、岩手、宮城、福島を中心に死者、行方不明者、災害関連死は計約2万2千人に上った。

### さまざまな震災犠牲者

当時、ある報道番組で取材に応じていた気仙沼市の危機管理課長をされていた方の言葉が頭に残っている。「震災の1年前から小さな津波が来ていた。その時も、それ以降の避難訓練でも周知徹底がされていた。しかし、想定以上の津波により自らが作った防災マップで安全だと記した避難高台で93名の命が失われた」。

彼はこのことに責任を感じ、市役所を退職した。現在は、震災語り部となり全国で災害を伝えている。昨今、自らが当事者でありながら責任を取らない政治家や官僚が、たくさんいる中、危機管理課長の彼など退職した人や、町を離れた人も数多くいたと聞いた。ある意味、この人たちも震災犠牲者だと私は感じた。

26年前、阪神淡路大震災を経験した私たちではあるが、街の復興が進むにつれて危機管理意識も薄れているのではないかと思う。

3月5日に開催した政府（気象庁）の第41回南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会では「現在のところ、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていない」としながらも、「昭和東南海地震・昭和南海地震の発生から、すでに70年以上が経過していることから切迫性の高い状態である」「マグニチュード8～9といわれている南海トラフ大震災は、関東から九州の太平洋側にかけての広範囲で（東海・近畿・四国が中心）被害は東日本大震災の10倍以上」とされている。特に港付近で働く私たちにとっては常日頃からの危機意識が必要である。

### 原発事故は明らかに人災

東日本大震災では地震から約1時間後に14～15mの津波に襲われた東京電力福島第1原子力発電所は、1～5号機で全交流電源を喪失した。原子炉を冷却できなくなり、1号炉・2号炉・3号炉で炉心溶融（メルトダウン）が発生。大量の放射性物質の漏洩を伴う重大な原子力事故に発展した。

この事故は国際原子力事象評価で最悪のレベル7、チェ



▲当時の新聞

ルノブイリ原子力発電所事故と同等に位置づけられている。同原発の立地する福島県浜通り地方を中心に、周辺一帯の福島県住民の避難は長期化するとともに最大16万5千人以上の県民が故郷を追い出され、現在も3万5千人の人たちが戻ることができていない。そして、放射能の影響で、東北や関東から避難した多くの人々が苦しんでいる。正にこの事故は原子力発電に依存した現代社会が生んだ「人災」である。

私たちは、自然による震災の教訓と共に原子力発電からの脱却と原子力事業の利権に群がる一部の権力者に対し悲劇を二度と繰り返させず、後世に繋げる「脱原発」を成し遂げる運動を強化していかなければならない。

# 関電は老朽原発を発動かすな

## 高浜全国大会

### 高浜原発抗議行動

3月20日、「3・20関電よ！老朽原発動かすな！高浜全国集会」に、大阪支部から執行部4名が参加しました。現地集合場所に向け車を走らせていると集合場所へ近づくにつれ巡回しているパトカーが増え、集会場近辺では検問がおこなわれていました。

11時45分から音海展望台（高浜原発周辺監視区域に指定）で総勢400名を超える仲間と高浜原発北門へデモで向かい、抗議行動と申入れをおこないました。



### 高浜町と岩国市内の類似点

抗議行動を終え、高浜町内を移動していて私が感じた違和感は町の風景に似合わぬ豪華な町役場やスポーツ施設、高浜町文化会館、どれもが建築されて間もない建造物でした。これは昨年、私が参加した岩国国際連帯集会で見た岩国市内の関連施設と同じ光景でした。国家による「岩国基地＝思いやり予算」「高浜原発＝原発マネー」このような「アメとムチ」を使い分けたやり方は、岩国国際連帯集会で現地活動家が話していたことと同じです。

高浜町文化会館で14時から

「老朽原発を動かすな！高浜全国集会」が開催されました。原発に対し各地から報告と問題提起がありました。

福島原発事故から10年が経ち、この事故が「原発が現在の科学で手に負える装置でないこと」を大きな犠牲の上に証明しました。

福島原発事故のあと、事故リスクの高い老朽原発の廃炉を着実に進めるために「原発の運転は40年まで」というルールが作られました。関電と政府は40年ルールがあるにも関わらず「高浜1、2号機と美浜3号機の20年追加延長」を認めました。

さらに、老朽原発の運転を原子力規制委員会が認可した2016年以降に、蒸気発生器配管の減肉・損傷、再稼働準備工事中の人身事故、原発関連工事費の不正還流など、トラブル、不祥事が頻発しています。なお、昨年12月に基準地震動の評価が過小であるとして、大飯原発3、4号機の設置許可取り消しを命じた大阪地裁判決は、原子力規制委員審査のいい加減さを端的に指摘しています。また、関電に関しては一昨年発覚した「原発マネーに関わる不祥事」の調査は、いまだに納得できるものではなく、関電が企業体質を抜本的に改善したとするには程遠い状態にあります。

### 高浜原発の現在と世論

関電が1月、3月に再稼働させようとしていた美浜原発3号機、高浜原発1号機は、いまだに燃料装荷すらされていません。3月18日、茨城県水戸地裁判決で、老朽原発で

ある東海第2原発の運転差し止めを命じました。「原発が重大事故を起こしたら避難は不可能」および「老朽原発うごかすな！」の圧倒的な民意に支えられた判決です。また、最近の報道では、脱原発を望む声が82%にも達し、ますます大きくなっています。



私は今回の活動を通じ「原発の必要性」に疑問を感じました。先ほども述べた通り「原発は現在の科学では手に負える装置ではない」のです。

私たちは10年前の福島原発事故を経験しました。周辺地域の方がたは、いまだに避難生活を余儀なくされ、帰宅困難区域に指定されている人たちは生まれ育った地を去る事を余儀なくされました。高浜原発をはじめ、周辺原発に事故があれば、関西の水瓶であるびわ湖は汚染され、私たちは生きる上で一番大切な「水」を失うこととなります。

また、私たちが絶対に忘れてはいけないのは「1945年に広島と長崎に原爆が投下されたこと」です。日本は世界で唯一の被爆国です。私は以前から、大阪支部の先輩に「平和なくして労働運動なし」と聞いていました。最近、この言葉を耳にする機会が多くなりました。平和とはなにか、労働運動とはなにか、活動をすればするほどいろいろな問題に直面し、考えることが多くなります。皆さんと一緒にこの答えに辿りつければいかと自分ながら感じています。（執行部 佐久原）